

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472500244		
法人名	社会福祉法人むつみ福祉会		
事業所名	グループホームむつみ園		
所在地	松阪市嬉野須賀領町		
自己評価作成日	平成21年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472500244&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成21年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

画一的なケアでなく、個々に合わせたケアを心がけ尊厳をもち利用者様に接する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に隣接し静かさも享受できる田園地帯の自然豊かな環境に位置している。デイサービスセンターを併設したむつみ園とヘルパーステーションなどを併設したあゆみ園の2ユニットのグループホームの間には広い農園(四季折々の果樹や農作物・花が植えられている)がある。日々の収穫は利用者の楽しみになっている。地域福祉に熱い思いでむつみ園と命名された運営者のもとベテラン管理者・全職員ともに理念『イ)心からホッとしていただけるようやさしい手、やさしい心をもって接します。ロ)お年寄りの誇りや自信を敬愛し、心身の安定に努めます。ハ)地域や家族との結びつきを大切にします。』を共有している。昼食時『私は此処で最後まで暮らしたい』と話される利用者同士の会話は楽しく、見守る職員の眼差しもとても優しく穏やかであった。利用者・職員ともにパーソン・センタード・ケアを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念に基づき、日々の介護に取り組んでいる。	『心からホッとしていただけるようやさしい手やさしい心をもって接します。お年寄りの誇りや自信を敬愛し心身の安定に努めます。地域や家族との結びつきを大切にします。』を地域密着型サービス意義を踏まえた事業所理念として代表者・管理者・職員ともに共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会など開催し地域の人に参加してもらい交流に努めている。	ふるさと会館での歌謡ショーに参加したり、野菜づくりや手品・大正琴のボランティアの方々の訪問があり、利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるように配慮し支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人が認知症の家族をかかえている人などの相談にのり地域のなかでも貢献するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、老人会のかたに参加してもらい災害時のことや転倒予防の件などそこでの意見をサービス向上に活かしている。	21年度の第1回運営推進会議が6月15日に松阪市介護高齢福祉課・地域包括支援センター・民生委員・上竜王自治会長・算所自治会長・評議委員・理事・家族代表が参加して開催されており、災害時の対応や転倒予防などを話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。これからも2ヶ月に1回、年6回開催予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事などある場合市や町に相談しサービスの質の向上に取り組んでいる。	松阪市の担当窓口・嬉野地区振興局・保健センターなどとも行き来し、サービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、毎月のカンファレンスでも話し合い身体拘束をしないケアを正しく理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。	代表者・管理者・職員ともに身体拘束・言葉の拘束の弊害を良く理解しており、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後も虐待の防止に努めたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいて権利擁護に関する制度の理解が徐々に深まっているように思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族に満足できる説明を行えるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から運営に関する意見があればそれを尊重し運営委員会などで外部に表せる機会を設けそれらを運営に反映させている。	月1回むつみ園・あゆみ園だよりを発行し、家族への手紙に同封し、家族が意見・要望を言いやすい雰囲気づくりの努力をしている。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行いそこで職員から意見や提案があれば、それを斟酌し、妥当な意見を反映するよう努めています。	運営者・管理者はともに現場の職員の要望や意見を十分に聴き、活かしていくように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場水準の見直し、教育研修まで職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、多様な研修に参加してもらうとともに職場内でも実務指導を併せて行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、安心し生活できる様、配慮し信頼関係を築ける様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来園時や電話連絡等により意見要望等を聴き、家族とのコミュニケーションに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の健康状態、精神面を把握しその時必要に応じたケアができる様職員間で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との日常生活の中で一方的な介護ではなく、共に過すという関係が築ける様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり、職員と家族が協力していける様な関係を築ける様、努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらったり、家族の協力を得て馴染みの場所に行ける様支援している。	併設のデイサービス利用者の訪問や、お墓参り・おやつ持参で地域内の散歩など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて利用者同士談話やビデオ鑑賞、レクリエーション等に参加してもらい利用者同士関わり合いをもてるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、次利用サービスの相談、助言に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の会話や表情、言動、又は家族からの情報をもとに検討し把握に努めている。	本人にできるだけ寄り添い、意志の疎通を図りながら日々の表情や行動から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。センター方式の「私の基本情報シート」を作成し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からも、生活歴等の話を聞き本人からもこれまでの生活を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムや、変化等を観察し現状を把握して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、職員間で情報交換し、家族、本人の意見、希望を聞き、現状に応じた介護計画を作成している。	毎日の申し送り時(8時30分～9時・17時～17時30分)に情報を共有し、担当者で定期的にカンファレンスを行い、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行なっている。家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や、個別に記録を書きまた、申し送りをし情報を共有しながら見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズを把握し希望に添えるような範囲で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域である催しがあり、それが本人にあえば参加してもらえるような支援をしていく、がADLにあわない方もみえて困難な場合もあるが個々にあった安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をもち、定期受診、往診をしてもらい、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	24時間対応の協力医療機関の定期受診・往診がある。2名の方は主治医での受診も支援している。本人・家族の希望を大切に、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないため常にかかりつけ医や地域の専門医へ相談し利用者が適切な受診看護を受けられる様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院と家族と密に連絡をとり早期に退院できる様に努め、そうした場合に備えかかりつけ医と関係を築き実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族との協議を重ね事業所としてできる事に努力をし、支援させて頂く様努めている。	管理者・職員がターミナルケアの研修を受け、グループホームでできる限りのことをし、日々のかかわりで出来ることと出来ないことを家族・主治医・職員が状況に応じて話し合いを繰り返し、地域の関係者とチームで支援していくことなどを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急対応講習に参加したり、事業所内での救急対応研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域の人々の協力が得られるよう自治会長さんと話している。食糧などの備蓄もしている。	松阪北消防署の協力もあり、年2回夜間の災害も想定しての避難訓練を行っている。法人には自衛消防隊もあり、備蓄もしている。	利用者一人ひとりの状態をふまえて、昼夜を問わず避難方法を検討し、地域の方々や他の事業所からも協力を得られるように日頃から話し合い、また地域の高齢者の避難場所として協力できる事を運営推進会議などで伝え、地域と助け合う関係作りが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームで働く心得を作成し全職員に配布し、尊厳をもち接して対応するよう意識して利用者一人ひとりに接している。	利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について、研修会などで具体的に確認している。グループホームで働く心得を作成し、言葉や語調がその人の誇りやプライバシーを傷つけることが無いように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見、希望を聞き自己決定してもらえる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、決まり事や都合で行動せず、本人のペースに合わせた支援ができる様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の床屋等を利用し、本人の意志にそった髪型にしてもらったり、服装も自分で選べる人は選んでもらい日々個人にあったおしゃれをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとりやふきのすじむきなど利用者が個々のできる範囲内での準備片付けなど一緒にやってもらっている。献立も利用者の好みや希望を取り入れている。	むつみ園とあゆみ園は献立も違い、それぞれ買い物の段階から利用者と一緒に考え、隣接の農園で収穫された野菜や果物も使用して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量を記録している、水分はなかなか摂ってもらえないが10:00や15:00にはおやつと共に摂ってもらえるようにしている。水分はこまめに摂ってもらえるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。義歯の利用者は週1回洗浄剤で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に支援している、オムツ、パットは本人に適した物を選択している、表をつけ時間を見てトイレ誘導も行っている。	利用者一人ひとりの排泄のパターンや能力・習慣を把握して、さりげなく自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関に相談したり、表をつけて個々に応じた対応を散歩、リハビリ体操などで体を動かし便秘への支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に応じて、いつでも入浴してもらえる様支援している。	基本的には入浴は毎日可能になっている。仲良し二人で入られる方や一人でゆっくり入られる方が、季節の菖蒲湯やみかん湯などで楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼の休息など自由にしてもらい、夜間も自分のペースで寝てもらっている。夜間眠れない人がいる場合夜間眠れない人がいる場合夜勤者が話し相手をして眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋綴りを作り服薬は個々に分けて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、季節に応じた食事で行事を行っている。地域のボランティアの方に大正琴の演奏や手品などして頂いている。ストレス解消に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩を毎日行っている。普段行けない場所については、家族と相談のうえ、天候や体調に合わせて出かけられる様支援している。	天気のよい日には利用者が散歩コースを決めて事業所周辺の田園地帯を散歩したり、電車を見に出かけたり、一人ひとりのその日の希望に添って戸外へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金がありそのなかから、出かけた時などに欲しい物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話できるよう配慮している。手紙も自由に書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境的にも静かな場所にあり、散歩途中、季節の草花を摘んできては、ホールに飾って季節感をあじわっている。	めだかや金魚のいる水槽やベンチが置かれた玄関まわりや季節の花が活けられた玄関は誰でも訪問し易いように配慮されている。あゆみ園のホールの明るい窓からは、果樹や季節の花々をいつも眺めることが出来、四季を体感できる工夫が随所に見られ、居心地の良い共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子がおいてあり利用者同士談話をしたり、随時思い思いに過せるスペースがあり、自由に利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して使い慣れた物をもってきてもらっている。仏壇をもってみえたりしている人もいる。	利用者一人ひとりの好みのもや家族と相談して使い慣れたものを持ってきてもらい、安心して過ごしてもらえるように配慮し、その人らしい居室になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を取り付け自立した生活が送れるよう、またトイレの場所などわかりやすいよう工夫をしている。		